

スペシャリストに学ぶ！ 緑内障・白内障手術の実践



座長



庄司 信行 先生 (北里大学)

【略歴】

1988年 新潟大学医学部卒業
1988年 東京大学医学部附属病院眼科
1991年 武蔵野赤十字病院眼科
1999年 北里大学医学部眼科学 講師
2000年 北里大学医療衛生学部視覚機能療法 助教授
2002年 北里大学医療衛生学部視覚機能療法 教授
2016年 北里大学医学部眼科学 主任教授
現在に至る

「緑内障エキスパートが考える 白内障手術のポイント」 ～私が考えるTECNIS Eyhance™の価値～ 庄司 拓平 先生 (埼玉医科大学・小江戸眼科内科)

演者1



【略歴】

2002年 防衛医科大学校医学部卒業
2004年 陸上自衛隊大久保駐屯地医官・千原眼科医員
2012年 埼玉医科大学 眼科 講師
2016年 米国UCSD (カリフォルニア大学サンディエゴ校)
ハミルトン緑内障センター 客員研究員
2019年 埼玉医科大学 眼科 准教授
2022年 埼玉医科大学 眼科 客員教授・小江戸眼科内科 院長
現在に至る

緑内障でも術後の見え方にこだわりたい。 私の眼内レンズの選び方

本庄 恵 先生 (東京大学)

演者2



【略歴】

1995年 京都大学医学部卒業 眼科学教室入局
2001年 京都大学大学院視覚病態学修了 助手
2004年 北野病院眼科 副部長
2006年 京都大学大視覚病態学 助教
2007年 東京都健康長寿医療センター
2015年 東京大学医学部眼科学教室 講師
2019年 東京大学医学部眼科学教室 准教授
現在に至る

近年、日本における失明原因の第一位である緑内障に対する医療は進歩を遂げています。特に、医薬品の開発に加え、新しい手術器具や術式の進化が進んでいます。一方で、1990年代には失明原因上位にあった白内障手術は、技術の進歩により成熟した手術といえるようになりました。手術手技の向上および術者の技術、顕微鏡や超音波乳化吸引装置の進化によって、現在では安全かつ良好な術後視機能を患者に提供しています。

そのため、患者の満足度をさらに向上させるためには、新しい眼内レンズの導入が重要な要素となります。高次非球面単焦点 IOL「TECNIS Eyhance™」は、2019年に欧州で販売開始され、2021年に日本市場にも登場しました。海外で「Enhanced Monofocal IOL」として知られるこの IOL は、従来の単焦点 IOL に比べてなだらかな焦点深度曲線を持ちながら、光視症の度合いや処方に関する制限は同等とされています。

今回のセミナーでは、緑内障専門医であるスペシャリストの先生から、白内障手術と緑内障手術の密接な関係を再整理していただき、今後の眼内レンズの選択に関する展望についてご講演いただきます。皆様にとって、有意義かつ実践的な情報が得られることを期待しております。